

平成27年度行政事業レビューシート

(内閣府)

事業名	科学の役割についての普及・啓発			担当部局庁	日本学術会議		作成責任者	
事業開始年度	昭和61年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	企画課		吉住 啓作	
会計区分	一般会計			政策・施策名	87 科学に関する重要事項の審議及び研究の連絡(政策23-施策①)			
根拠法令(具体的な条項も記載)	日本学術会議法第2条			関係する計画、通知等	-			
主要政策・施策	科学技術・イノベーション			主要経費	その他の事項経費			
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	日本学術会議法第2条に基づき、わが国の科学者の内外に対する代表機関(全国約84万人の科学者の代表として選出された会員210名と連携会員約2,000名で構成)として、学術フォーラムを通じ、科学の役割について国民の認識を高めることで科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させる。							
事業概要(5行程度以内。別添可)	科学的・学術的な成果を国民に還元するための活動として、学術フォーラムを開催している。学術フォーラムは、日本学術会議会員等が講演、パネルディスカッション等を行い、科学の成果を国民にわかりやすく伝えるとともに、国民と双方向のやり取りがなされるよう構成した公開講演会である。また、科学の役割についての普及・啓発等のために図書館を設けているが、この図書館は、国立国会図書館法の規定により国立国会図書館の支部図書館として指定されており、各所属機関の特色に応じた資料を所蔵する専門的な図書館となることを求められているため、関連書籍の収集を行っている。							
実施方法	直接実施							
予算額・執行額(単位:百万円)	予算の状況	当初予算	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度要求	
		補正予算	3.3	3.2	3.3	3.3	3.3	
		前年度から繰越し	▲0.1	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-	-
		予備費等	-	-	-	-	-	-
		計	-	-	-	-	-	-
	執行額	3.2	3.2	3.3	3.3	3.3		
執行率(%)	2.5	2.9	2.7					
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 27年度	
	平成27年度に目標値95%を達成する。	学術フォーラムの参加者アンケートで肯定的に評価した者の割合(平均値)	成果実績	%	90	95	95	
		目標値	%	80	95	95	95	
		達成度	%	112.5%	100%	100%		
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載							<input type="checkbox"/> チェック	
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標	単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込		
	日本学術会議主催学術フォーラム開催回数	活動実績	回	12	13	17		
		当初見込み	回	10	10	15	10	
単位当たりコスト	算出根拠	単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込		
	各年度執行額(フォーラム分)/実施回数	単位当たりコスト	千円	65	86	52	148	
		計算式	/	776(千円)/12(回)	1,117(千円)/13(回)	879(千円)/17(回)	1,482(千円)/10(回)	
内訳(単位:百万円) 平成27・28年度予算	費目	27年度当初予算	28年度要求	主な増減理由				
	会員手当	0.2	0.2					
	諸謝金	0.3	0.3					
	職員旅費	0.2	0.2					
	委員等旅費	0.6	0.6					
	庁費	0.2	0.2					
	国会図書館支部庁費	1.8	1.8					
	計	3.3	3.3					

事業所管部局による点検・改善					
項目		評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	学術フォーラムは、科学の向上発達に寄与するという目的の下(日本学術会議法第2条)、科学リテラシーの普及・啓発のために進んでいるものである。科学・技術が国民に適切に理解され活用されるようになるためには、科学的・学術的な成果をわかりやすく伝えるとともに、国民と科学者との対話が必要であり、そのための手法として学術フォーラムを開催している。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	学術フォーラムでは、多岐にわたる専門領域の科学者が日本学術会議における審議で集積した科学的・学術的な成果を、我が国の科学者の代表である会員等によってわかりやすく国民に伝えることができる場であり、日本学術会議ならではの活動である。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	学術フォーラムは、科学の向上発達に寄与するという目的の下(日本学術会議法第2条)、科学リテラシーの普及・啓発のために進んでいるものである。科学・技術が国民に適切に理解され活用されるようになるためには、科学的・学術的な成果をわかりやすく伝えるとともに、国民と科学者との対話が必要であり、そのための手法として学術フォーラムを開催している。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	日本学術会議主催で行われる講演者に対する手当、謝金及び旅費について関係法令に基づき各個人に適切に支給している。	
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-		
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	日本学術会議主催で行われる講演者に対する手当、謝金及び旅費について関係法令に基づき各個人に適切に支給している。	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	日本学術会議主催で行われる講演者に対する手当、謝金及び旅費について関係法令に基づき各個人に適切に支給している。	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-		
事業の有効性	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか		○	国会図書館支部庁費の資料購入経費は、学術情報資料収集に必要な定期刊行物であり、費目・使途共に業務を実施するために必要最低限のものである。	
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか		○	目標を100%達成し、成果目標に見合った成果実績を上げている。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	学術フォーラム出演者に対する手当、謝金及び旅費及び国会図書館支部庁費は、共に直接的経費であり、費目・使途共に業務を実施するために必要最低限のものである。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	活動実績については見込みどりの開催回数となっており、適切であるといえる。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	成果物の活用については、学術フォーラムの開催報告をホームページに掲載し、随時国民のアクセスを可能とするとともに、ホームページ上で受け付けた意見・要望を関係分野別委員会にフィードバックすることとしており、広報活動と学術会議における審議へのフィードバックを通じて、成果物の活用に努めている。	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-		
	所管府省・部局名	事業番号	事業名		
点検・改善結果	点検結果	平成26年度は、「男女共同参画は学問を変えるか?」、「国際リニアコライダー(ILC)計画」、「減災の科学を豊かに」、「東日本大震災・阪神淡路大震災等の経験を国際的にどう活かすか」、「科学研究における健全性の向上について」等計17回の学術フォーラムを開催した。国民の関心の高い事項について、日本学術会議会員等による講演・パネルディスカッションを内容とする学術フォーラムを開催することにより、学術成果の国民への還元に資することができた。また、日本学術会議主催で行われる学術フォーラムの出演者に対する手当、謝金及び旅費について関係法令に基づき各個人に適切に支給している。			
	改善の方向性	今後も国民の関心が高い事項について科学の成果をわかりやすく伝えることを念頭にテーマ選定を行うとともに、学術フォーラムにおける議論の成果を日本学術会議の活動に反映させ、更にその結果を国民に伝えるというような、国民との双方向のやり取りがなされるよう、配慮していくとともに、今後においても、出演者に対する手当、謝金及び旅費について関係法令に基づき各個人に適切な処理に努める。			
外部有識者の所見					
点検対象外					
行政事業レビュー推進チームの所見					
現状通り	引き続き、事業の適切な進捗管理、予算の効率的執行に留意すべき。				
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
現状通り	引き続き、事業の適切な進捗管理、予算の効率的執行に努める。				
備考					
定量的な成果目標の最終目標年度欄について、最終年度ではないが便宜的に直近の27年度を記載 (参考)学術フォーラム開催報告掲載サイト: http://www.scj.go.jp/ja/event/index.html					
関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年度	0159	平成23年度	0166	平成24年度	0160
平成25年度	0114	平成26年度	0111		

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

日本学会議事務局企画課、
参事官(審議第2担当)
2.7百万円

学術の成果を国民に還元するための公
開講演会の開催に必要な経費等

→ 【随意契約(少額)】

A.民間企業等(4者)
1.8百万円

国立国会図書館支部図書館の
資料購入経費等

→ 【旅費・手当:直接】

B.会員・連携会員等(28人)
0.8百万円

会員・連携会員等の旅費・手当
等

資金の流れ
(資金の受け取
り先が何を行っ
ているかについ
て補足する)
(単位:百万
円)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)ぎょうせい	定期刊行物	0.9	随意契約	-
2	(株)OCS	定期刊行物	0.4	随意契約	-
3	(株)文研堂書店	定期刊行物	0.4	随意契約	-
4	一般財団法人日本学術協力財団	定期刊行物	0.1	随意契約	-
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	会員A	会議出席旅費・手当	0.1	-	-
2	会員B	会議出席旅費・手当	0.1	-	-
3	会員C	会議出席旅費・手当	0	-	-
4	会員D	会議出席旅費・手当	0	-	-
5	会員E	会議出席旅費・手当	0	-	-
6	会員F	会議出席旅費・手当	0	-	-
7	会員G	会議出席旅費・手当	0	-	-
8	会員H	会議出席旅費・手当	0	-	-
9	会員I	会議出席旅費・手当	0	-	-
10	会員J	会議出席旅費・手当	0	-	-

支出先上位10社リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載

チェック